参考資料１

第 3 回　新 AI 戦略検討会議　議事要旨

１．日　時　令和 3 年 12 月 17 日(金) 14:00-16:00
２．場　所　オンライン会議
３．出席者※敬称略

【新 AI 戦略検討会議】

座長

北野 宏明	株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長 （AI 戦略実行会議　構成員）

構成員

安宅 和人	慶應義塾大学 環境情報学部 教授、ヤフー株式会社 CSO
尾原 和啓	フューチャリスト、藤原投資顧問 書生
盛合 志帆	国立研究開発法人情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所 研究所長
ルゾンカ 典子	コスモエネルギーホールディングス株式会社 執行役員 コーポレート DX 戦略部担当

【AI 戦略実行会議】

構成員

神成 淳司	慶應義塾大学 環境情報学部 教授

【関係省庁】

平本　健二	デジタル庁データ戦略統括
大久保　佑美	金融庁総合政策局総務課係長
新田　隆夫	総務省国際戦略局技術政策課長
小川　裕之	総務省国際戦略局技術政策課研究推進室長
川口　悦生	文部科学省研究振興局参事官（情報担当）
高江　慎一	厚生労働省大臣官房厚生科学課研究企画官
助川　洋平	農林水産省大臣官房政策課技術政策室課長補佐
湊谷　陽太	農林水産省大臣官房政策課技術政策室
高田　和幸	経済産業省産業技術環境局研究開発課産業技術プロジェクト推進室長
山本　誠一朗	経済産業省製造産業局自動車課課長補佐
村川　正宏	産業技術総合研究所情報・人間工学領域人工知能研究センター副研究センター長
森久保　司	国土交通省 大臣官房技術調査課環境安全・地理空間情報技術調整官
伊崎　朋康	国土交通省 総合政策局技術政策課技術開発推進室長
古土井　健	国土交通省 港湾局計画 企画室長
白戸　真大	国土交通省国土技術政策総合研究所道路構造物研究部橋梁研究室長
伊藤　渉	気象庁総務部企画課技術開発推進室調査官
加藤　学	環境省大臣官房総合政策課環境研究技術室長

【事務局】

米田　健三　　内閣府科学技術・イノベーション推進事務局統括官
井上　諭一　　内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長補・内閣官房内閣審議官
根本　朋生　　内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官
塚本　武雄　　内閣府科学技術・イノベーション推進事務局上席政策調査員

４．議題

(1)関係機関からのヒアリングについて
(2)戦略骨子検討について
(3)意見交換
(4)その他

５．配布資料

資料 1　国土交通省説明資料
資料 2　厚生労働省説明資料
資料 3-1 経済産業省（産業技術総合研究所）説明資料
資料 3-2 経済産業省説明資料
資料 4　事務局説明資料

参考資料 1　新ＡＩ戦略検討会議（第２回）議事要旨

６．議事要旨

(1)関係機関からのヒアリングについて

①国土交通省

国土技術政策総合研究所、港湾局、気象庁より、道路橋の維持管理実務におけるＡＩ技術等の実装に関する取組、港湾におけるデジタル化の推進状況、気象分野における AI 技術活用の取組等を説明。その後の質疑応答においては、次のような言及があった。

・（非常に競争の激しい領域であるが、日本の港湾におけるデジタル化の取組は、シンガポール等のレベルと比べてどうか？との問いに対して、国土交通省から）日本は遅れている。労働環境の改善も含めて、現場と向き合って進めていきたい。
・どの取組も日本にインパクトがある事項。非常にグローバルでコンペティティブなところ。もう一つ上の視点での取組が必要ではないか。例えば日本の国際技術で粘る部分と、先行する海外から技術を仕入れてそのオペレーションに力をいれて差別化する部分は明確に分けるべきではないか。オペレーティブなところで勝負するなら、ヨーロッパ等も進んでいるので、これらと組んでショートカットするという考えもあり得る。
・協力体制を作って取り組むべき。もっと進んだ取組をしている企業もある。これらと組んで取り組まないとロスがでる。どこの国でも取り組んでいる事は、オール・ジャパンで取り組まないと追いつけない。
・（どの取組も重要であることは認識しているが、例えば海外展開であるとか、どのようなかたちで国力の増大につながるのか？との問いに対して、国土交通省から）国際競争力を高めることと生産性を高めること

は重要な課題と認識。i-Construction、その他 AI 技術もこれに資するものと考えている。国内的・国際的競争力というところも、戦略を持って、両面で国際競争力をもっていけるように進めていきたいと考えている。

・もともと、日本の土木技術等は高いレベルで、競争力を持っている。ここにサイバー化した能力を付加すれば競争力となるし、国家戦略と合致するのではないかと期待している。

②厚生労働省

厚生労働省から、資料 2 に基づき、健康・医療・介護・福祉分野における AI 開発、電子カルテ情報及び交換方式の標準化、AI を用いた医療機器の開発促進に向けた規制改革実施計画への対応についての説明等を実施。その後の質疑応答においては、次のような言及があった。

・（各々の取組は引き続き進めてほしいが、人口が縮小する日本では、国際競争力がないと国内市場の縮小に付き合っていくことになるのでは？との問いに対して、厚生労働省から）健康医療戦略の枠組みの中で、医療分野はグローバルなものであり、外に打って出るという政府の戦略は明確。ただ、それを実現するために、アメリカや中国と比べて AI だけに特化してみたときにどうするかと考えるのは難しいため、日本の強みである保険健康分野のサービスやシステムなどを様々な形で組みあわせて、どう伸ばしていくべきかの検討を現在実施している。

③経済産業省

経済産業省製造産業局及び産業技術総合研究所から資料 3-1、3-2 を用いて、大規模イベントにおける「ワクチン・検査パッケージ」に関する技術検証例、民間企業等との共同研究事業化例、海外展開を見据えた研究開発例、自動運転・MaaS の社会実装に向けた取組等を説明。その後の質疑応答において、次のような言及があった。

・（社会実装でインパクトを出すためには、何の研究もしくは何の基盤の提供が最も重要か？との問いに対して、産業技術総合研究所から）AI と人間の協調、Human-in-the-Loop もしくは Expert-in-the-Loop に資する技術の開発が重要。この要素技術のひとつとしては XAI も含まれる。基盤については、モデルを再利用する技術、わずかなデータで AI を利用できるような技術開発等が必要であると考えている。

・(世界的な観点で、日本の自動運転技術に競争力はあるのか？との質問に対して、製造産業局から）かなり厳しい立場にある。アメリカではシリコンバレーでどんどん自動車を走らせ、データを食わせ学習している。中国にも様々なプレイヤーが存在。米中では、かなりスタートアップが揃ってきている。もちろん日本の自動車メーカーやスタートアップも頑張っているので支援が必要。

・EV 自動運転系は大きな次の産業になるべきもの。実証実験でとまらず、たとえわずかであっても取り組んだ企業へ売上げが入るかたちにするべき。

(2)戦略骨子検討について

事務局より、新 AI 戦略検討会議におけるこれまでの議論のまとめ、業界調査結果の概略等が示され、それらを踏まえた検討の進め方の例を説明。その後、意見交換を実施。主な質疑応答は次のとおり。

・（AI はあくまで手段であるため、海外で既に出来上がっているものを持ってきて、日本でいち早く実装することで、結果として AI により産業の国際競争力を持つという考えは検討の範囲内であるか？　また、Human-in-the-Loop や Harvest Loop の作り方のデータのエコシステムの作り方で、競争力を持っていくという考え方もあるが、どこまでを検討の範囲内と捉えて議論をしていくべきか？という問いに対し、事務局から）いずれも議論の範疇であると考えている。これからまとめる戦略に基づいて、関連省庁では今後の予算要求等を検討することになる。その際、国としての取組には、国産技術を海外に展開していくことも、海外から買ってくるような取組も含まれる。
・（現在の活動の大幅な見直しなどの介入をしていく方向性と、あくまで既存の活動のプラス・アルファを加速する材料を提供するという方向性があり、この２つの方向性で議論の内容は大きく異なっていくように感じているが、どう考えるか？という質問に対し、事務局から）AI 戦略自体は、関係省庁を交えた会議で最終的には決めることになるため、あらかじめ、それぞれの省庁と調整して合意を取る必要がある。そのため、一方的に押し付けることはできないものの、説明して先方の理解が得られるようならばどのような方向性でも問題はない。

(3)まとめ

事務局より、新 AI 戦略検討会議におけるこれまでの議論のまとめ、業界調査結果の概略等が示され、それらを踏まえた検討の進め方の例を説明。その後、意見交換を実施。主な発言は次のとおり。

・我々がどのようにゲームチェンジを仕掛けられるのかという話と、国としてやっていかなければならないものにどうメリハリをつけるかという話の議論をする時間が必要。単純な AI の実装ゲームは、病的な勢いで進んでいるので、違う視点で考えていき、あらゆる産業を変えていくというのが、日本らしいゲームだと思う。
・事務局がまとめた社会実装に向けた取組で洗い出されているものは、的確だと思う。それをいつまでに、どれぐらいの目標を達成するかというところを盛り込むべきかと感じている。
・各省庁から出てきている取組はマストなので実施するが、やるにしても、もっと戦略的な Harvest Loop の考え方もあるかもしれないし、その向こうにあるものがあるはず。現時点では、それがテーブルに上がってきていない。
・事務局のまとめはよくできていると思うが、これはもう我々は議論するものではなく、各省が検討できるもの。そのため、我々は、これ以外のことを議論していく必要がある。
・次の２回で作り込む必要がある。そのため戦略の方向性を出すような資料のドラフトを用意し、それをたたき台にして議論してもらい、それを何度か回し、次回に臨みたい。メールベースで、必要に応じてバーチャルで議論する。

(4)その他

次回会議は 1/24（月）　16:00～18:00 を予定。

以上